鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

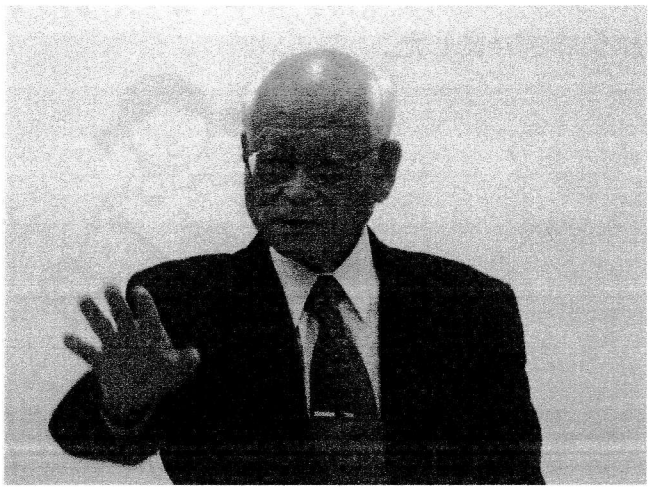
鳥取県青少年育成アドバイザー通信６０号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日　2011. 12. 5
編　集　芳村恵子
〒680-0002　鳥取市浜坂東 1-10-15

このごろのこと

井上　廉女

10 月の研修で伊藤肇先生から「私の歩んだ道（一期一会の人生）」と題した講演をいただき、退職時のエピソードやその後の取り組み等、生涯ずっと子どもたちと向き合ってこられた年月の重みにとても感激しました。
「実意」をもって子どもたちを見守ることを私も実践していきたいです。

いつも笑顔で声をかけてくださる伊藤先生が大好きです。そしてアドバイザーの皆さんすべてが我が師であり、毎回研修でその生き方から多くを学ぶ機会がいただけることを常に感謝しています。



さて、私事ですが、近年は親の介護と、息子たちの結婚、孫の誕生等々、人生の一つの節目に来ている思いを強くしています。

新しい家族がふえていくことは本当にうれしいです。これからもずっと夫婦、家族、地域の人たちと、皆で仲よく、お互いを気遣い合って暮らしていくことができればと思っています。

特に孫の誕生は、驚くべき新たな発見の連続です。子どもの成長、特に生後１年の赤ちゃんの日々刻々変化する様子は目を見張るものがあります。澄んだ瞳とやわらかな感触は命そのものであり、周りのすべてを幸せにする大きな力を持っていると感じます。

そんな中、11 月 15 日、西浦公子さんに遠路はるばる江府町へ講師としてお越しいただき、町民会議主催による「赤ちゃんふれあい会」の学習会を行いました。

岩美町での実践されている様子を詳しく報告してもらい、赤ちゃんの成長や命の尊さを心と肌で実感しながらコミュニケーションすること、ふれあうことにより、参加されたお母さんや児童生徒たちに気づきや変化が生じるということでした。

会の出席者は、人数は少なかったものの、我が町の学校、保育園、児童クラブ、民生児童委員、青少年関係等、それぞれ地域の子どもたちを本気で考え支えるメンバーがそろい、西浦さんからのお話の後、江府町の子育て状況や保・小・中の情報交換や共有の場となり、大変に有意義な会になりました。そのきっかけづくりをしてくださった西浦さん、本当にありがとうございました！

江府町では、残念ながらまだふれあい会を実施するには至っていませんが、これからもこのメンバーとの連携を大切にして、江府町なりのふれあいの取り組みを進めていきたいと思っています。

農耕の民と流浪の民
農地への「ありがとう」を忘れた日本人

西上　洋治

台風の被害は予想以上のものです。雨がたくさん降るようになったのかもしれませんが、根本的には山の手入れをしなくなった結果、山での保水力がいちじるしく低下しているの

裏面に続く

です。植林された木々の下は草が生えていません。流れ出した水は土砂となって駆け下りてきます。

このような山の手入れをしながら生活する若者がいないので現状は回復されないと思います。政治主導といいながら、ほったらかしにされ、このままでは日本の国土はだめになってしまいます。

自民党時代からアメリカ流の民営化、グローバル化に毒され、民主党になっても何ら日本流が復活されないまま、今日に至っています。

日本は農耕の民と言われ、先祖からの田畑を耕し、大事に引き継いでいたのです。
ところが、アメリカ流のビジネスモデルがさも発展の姿であるがごとき主張がなされ、企業もそれまでの終身雇用制をどこかに忘れ去っています。目の前の獲物を捕らえ、食して生活する流浪の民のような姿が今日の日本なのです。

行政担当者も議員も、今一度日本のあるべき姿を考えてほしいものです。先祖伝来の棚田も耕作放棄地となり、水田の保水面積も急激に減ってきていることを知らないのでしょうか。へたな助成金を出すよりも、そこで生活している人々が住み続けられるようなシステムをつくることが必要なのです。国防にも匹敵する国土保全のシステムづくりなのです。

通心

芳村　恵子

ある日、タクシーに乗りました。運転手席の背中のポケットに、お知らせのパンフレットや冊子が挟んでありました。その真ん前に「光通心」という冊子が目に飛び込んできました。

今朝は出勤したとたん、腹痛で救急受診した方が子宮外妊娠と診断され、早く総合病院に搬送しなければならない状況になっていました。早速着替えをし、書類を手に送っていきました。待ち構えていてくれた病院スタッフに送り届け安堵した帰り道でした。

冊子の右下に小さな字で、「題字　柴山抱海書」とあり、ある葬祭センターの機関紙でした。どうも私はその「つうしん」の言葉に引かれたようでした。長い間、アドバイザー通信の編集に携わらせて頂きながら、通信で心を通わせたいという思いはあっても、「通心」と書き表すという発想がなかったのです。辞書を紐解いても「通信」や「痛心」はあっても、勿論「通心」はありません。日本語の優しさに触れた思いでした。

薄っぺらの小さな冊子ですが、ほんの５分ほどのクリニックへの帰り道には読みきれなく、頂いて車を降りました。『特集　因幡の白兎』で面白く読ませて頂きました。

搬送した患者さんの手術が無事に終わるよう願いながら、朝からいい気分になりました。おまけに運転手さんが女性で、タクシーの中の香りが良かったのも心を癒す相乗効果になったのかも知れません。朝早くから、ありがとうございました。

編集後記

2011年も、残すところ20日になりました。年賀状の話題も多く聞かれるようになりました。今年は震災があって、まだまだおめでとうの気持ちになれず、それでも感謝とお礼の気持ちは伝えたいと「元気だ状」という葉書がだされたというニュースが流れていました。

「絆」「通い合う心」という言葉が、身に沁みる一年でもありました。

どうか、よいお正月をお迎えください。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(word で入れてください)